

コミュニティ・スクールだより

令和6年12月発行

令和6年度第2回学校運営協議会を開催しました

10月7日（月）、令和6年度第2回学校運営協議会を開催しました。今回は文部科学省CSマイスターの朝倉美由紀氏を迎え、前回の会議での提言についての活動報告と、その反省を生かし更なる活動内容について協議しました。



館特校長、館高特校長より

- 買い物学習体験では、館特は近くのコンビニなど、館高特ではコンビニやアゼリアモールなどを利用している。また、公民館や近くの公園に出かけ、様々な学習を行っている。今後遊びや清掃など地域の方と一緒にできる事を願っている。
- 三野谷公民館祭りや市民フェスティバル等の授業日以外や小学校のワックスがけなど授業時間以外の対応は、保護者の協力が必要となったり、授業日の入れ替えなどが必要となったりするので対応が難しい。
- 学校公開でお互いの職員が参観することで両校の理解が深まった。また、校内研修に参加し合い、2校の職員が就労先の事業者からの詳しい話を聞くことができ卒業後を意識したつながりのある教育の重要性を認識することができた。
- 2校の合同避難訓練は2学期中に実施予定である。
- 子供たちの自立に向けて進路実現、就労実現のために、障害者雇用を考えている地域の方々に2校の児童生徒の実態を知ってもらいたい。

協議で話題になったこと

- 保護者の皆さん（特別支援学校に通っていない方も含めて）の不安を軽減する情報発信
- 卒業後を意識したつながりのある教育や支援のあり方
- 福祉サービスや制度についての学びの場（継続すること、つながりを作ること）
- 民生委員さんとのつながり（地域での困りごと）
- 地域資源の活用（公民館、公園、店舗、ピオトープなど）
- 合同防災訓練（応急手当、バケツリレー、炊き出し、非常食の試食、起震車体験など）
- 公民館事業としての防災教育やeスポーツなどの取組
- 福祉、行政、学校の連携

などなど



話題になったことから

- （特非）HOMEでは、地域交流として館林市と邑楽町の民生委員さんは年に1回、障害者施設を見学に来てもらい理解を深めてもらっている。その時に子供の進路などの地域の困り事を聞くことがあるので、両校の学校見学会に民生委員さんを誘い、特別支援学校を知ってもらうのはどうか。
- 避難訓練は、実際の地震の時の事を考えて避難場所への避難訓練として館特と館高特で一緒に行く。今後、公民館を活用して七小や高齢者の団体と一緒にするのも良いのではないかな。非常食を食べる体験を3校で経験するのも良いのではないかな。
- 公民館事業として運動能力の差があっても楽しめるeスポーツなどを行うのも良いのではないかな。



- 卒業後を見据えた教育として、保護者は就労や卒業後の話を聞くことがあっても良く理解ができていない実態がある。行政として園から学校へのつながりを深めてほしい。地域によっては成長シートを作り園からの成長段階に応じた引き継ぎがスムーズになっている。相談できる場としての市町の福祉課や事業所（ベリー）などが現場に周知されることも大切。また、保護者としては事業者からの就労についての話を1校でまとめて聞くことができる場があるとありがたい。